



西条保育所完成予想図

建て替え工事やつと着工 西条保育所

移転開園は2020年4月予定

すずかみん

 第152号
2018年11月

 日本共産党鈴鹿市議団
市議会報告

園舎の老朽化により、移転新築が進められている市立西条保育所の建設工事契約が、9月議会で審議・可決されました。工期は10月から1年間、現園舎からの移転開園は20年4月の予定です。

新園舎は定員140人に加えて、一時預かり保育や病後児保育の部屋が併設され、鈴鹿市の子育て支援総合拠点としての役割をもちます。新園舎の場所は現在より南の西条8丁目の広い敷地に鉄骨平屋建ての園舎、駐車場が配置されます。

この土地は長年、市土地開発公社が利用目的なく「塩漬け」保有していたのを、2014年保育所用地として取得したものです。

このペースで、次の保育所建て替えはいつに？

鈴鹿市は「保育所施設整備方針（2015年策定）で、西条（築40年）・玉垣（築49年）・算所（築43年）合川（築45年）の4園を「重点整備」するとしています。その第1号となった西条保育所で、用地確保から工

事完成まで、延べ6年かかりました。あとの3園については、まだ建て替え計画は立っていません。

いまのペースで進むならば、西条より古い3保育所の建て替えは10年以上先になり、さらにあと5園が築40年を超えてしまい、老朽化がますます深刻化します。

森川ヤスエ議員は、9月議会の中でも改めて具体的な実施計画、集中的な取り組みを強く求めました。



急がれる療育センターの拡充

鈴鹿市療育センターは、児童発達支援センターとしての役割も担うようになり、多種多様な対応を行なうため、利用者も職員も増えて、ひじょうに手狭になっています。

椅子に座ると机の引き出し



森川ヤスエ 市議

国民健康保険料、引き下げは可能

今年の国保料「取り過ぎ」1.4億円

石田秀三議員は今年度の国保料収入が、当初予算より増える見通しについて質問しました。

市の当初予算での収入額は、県への納付金50億円から逆算した37.5億円と聞いていたが、7月に行なった本算定では1.8億円増の39.3億円、年度末の予測値でも1.4億円増の38.9億円となりました。

これは3月議会で石田議員が計算した金額とおりで、



石田 秀三 市議

石田議員は「余裕が隠された予算」だったと指摘し、余裕分を取り過ぎ分は、本年度納付する市民に返すべきだ、と求めました。

基金残高は10億円超、市民に還元すべき

また石田議員は、H29年度国保会計の決算で8.4億円の黒字が確定し、H30年度末の支払準備基金残高は9.7億円にもなる。これに本年度の国保料「取り過ぎ」分を加えれば、基金は10億円を超える、と指摘

平成30年度国民健康保険料算定の比較

	4月当初予算	7月算定額	年度末予測額
保険料収納見込み額	37.5億円	39.3億円	38.9億円
当初予算との比較	—	+1.8億円	+1.4億円

国民健康保険会計の年度別黒字・基金残高

	H28年度	H29年度	H30年度
決算黒字額	3.2億円	8.4億円	?
基金残高	4.2億円	5.7億円	9.7億円
合計	7.4億円	14.1億円	10億円+

(H29年度黒字から、翌年度に3億円を精算・国へ返還予定)

しました。この黒字や基金残高は、H28年に平均17%も引き上げた国保料の積み上げであり、市民に還元すべきものであると石田議員は主張しました。

子ども保険料「均等割」無くすなど検討を

健康福祉部は、H27年度末の赤字補てん借入金金の返済がある、次年度の県への納付金が高くなった時の財源として確保する必要がある、などの理由をあげて保険料引き下げは難しいと答弁しました。

石田議員は、借入金（3.7億円）は過去の赤字補てんであり、後年度の加入者に負担させず、一般財源を充てるべきだ。来年の納付金が多くなることを踏まえ、大なたを振るべきだ、と指摘

す努力を、と求めました。

例えば3月議会で石田議員が提案した、子どもにもかかる保険料「均等割」を無くすための必要額は（18才以下全員）1.1億円、基金の一部活用で十分できます。

石田議員は「国保財政の健全な運営」を言うよりも、市民の「健全な暮らし」を守るのが行政の責任だと、検討を求めました。

安心安全な雨水対策を

記録的豪雨が日本列島各地に被害をもたらしています。橋詰圭一議員は9月議会、鈴鹿市の雨水対策について一般質問しました。

金沢川下流域の河川改修は県に要望

土木部からは、近年の記録的豪雨、およびそれに対応した金沢川上流での治水事業による流量の増加が見込まれるが、金沢川下流域では土砂の堆積や雑木の繁茂が顕著であり、流下能力を阻害し浸水被害を引き起こす懸念もあるので、下流域を管理する三重県に対して河川改修の促進と維持管理の拡充を強く要望しているとの答弁でした。

白子駅周辺の浸水対策は、今年度中に策定

橋詰議員は、白子駅周辺の浸水対策について3年前の質問でもとりあげましたが、その時の答弁は「白子駅周辺については、新生公園雨水貯留池をはじめ、全体的な浸水対策が100%機能しているにもかかわらず、浸水被害が発生している状況を踏まえ、平成3年に策定した『白子地区浸水対策



橋詰 圭一 市議

検討書』の見直し、白子第3排水機場等の老朽施設の更新計画、ならびに当地区において、江島ポンプ場への流入渠のような地下への大きな施設を埋設するなど、さまざまな選択肢を考慮し、浸水対策施設整備計画を策定してゆく」という内容について質問しました。

白子駅周辺の浸水対策に

スマホに子守りをさせないで！

橋詰議員は9月議会で、乳幼児の発達とメディアの弊害について一般質問しました。

乳児家庭全戸訪問でパンフレット配布

健康福祉部からは、母子健康協会からも「からだが育たない」「コミュニケーション能力が育たない」「パーチャル体験先行の危険」の3つの健康障害が報告されている。しかし、昨



年度の内閣府実施の子どもを対象にしたネット使用の調査では、2歳児の28・2%が使用していることなども紹介されました。その上で、日本小児科医会の「スマホに子守りをさせないで！」のパンフレットを、昨年度より乳児家庭全戸訪問で配

ついては、重要度、緊急性ともに高く、早急に検討すべき重点地区と位置づけて対策案の検討をしている。具体的には、今年度中に策定される「鈴鹿市総合雨水対策基本計画」で明確に示されるとの答弁でした。



金沢川下流 近鉄鉄道橋付近

築36年の市営プール、すすむ老朽化・劣化

石田秀三議員は9月議会一般質問で、石垣池公園の市営プールの老朽化対策について質問しました。

割れたタイル、サビた階段など危険な状態

市営プールは1983年の開設から36年、設備のあちこちで老朽化・劣化がすすんでいます。石田議員は写真を提示しながら、危険な箇所を具体的に指摘し、改善を求めました。

①プールサイドのタイルが割れていて、はだして歩くと危険、②幼児用滑り台の鉄製の階段のサビがひどく、子どもの足が当たればケガする、③更衣室の床の樹脂

学童でのゲーム機、実態の把握に努める

放課後児童クラブでのゲーム機の使用については、小学校への持込が基本的に禁止されているため持込されていないと認識しているが、ゲーム機等の利用について実態の把握に努める。また、子どもとメディアの問題に



石垣池市営プール

製すのこも劣化して割れている。どれもシートやテープで覆ってあるだけで、補修はされていません。

浄化装置の機能低下、藻の発生も

また石田議員は、プールの底や壁面に黒い藻が発生し、職員が除去に努めているが、取りきれない状態であるが、水の循環ろ過装置が開設以来36年間更新されず、機能が低下していることが問題ではないかと、設備の

ついて、今後も、放課後児童支援員への研修などを通じて周知に努めるとの答弁でした。



改修を求めました。

来年のシーズン前に必要な修繕、点検を行なう



プールを管理する文化スポーツ部は、①利用者の安全を最優先に考え、必要な修繕を実施する、②循環ろ過装置については、可能な限り早い時期に点検を実施し、修繕など対応してプール営業に支障のないようにしたい、と答弁しました。



サビをテープで覆った階段

生活相談などお気軽に連絡下さい

石田 秀三 ☎371-0423
鈴鹿市伊船町 2751

森川ヤスエ ☎384-3740
鈴鹿市矢橋3丁目10-34

橋詰 圭一 ☎386-8561
鈴鹿市岸岡町 2874-1

日々の活動は
Facebook
ブログ、HPを
ご覧ください

石田 秀三

森川ヤスエ

はしづめ圭一

検索